

外国に学ぼう 男女共同参画社会をつくる ヒントをみつけよう

特集

えみさんは、外国の男女共同参画について調べようと、
東大阪市立男女共同参画センター“イコーラム”を訪れました。
本を読んだり、職員の話をして、こんなことがわかりました。

男女共同参画社会では、自分で 働き方や生き方をデザインできる

女性が活躍している国には共通した特徴があります。

その1つは、働き方に柔軟性があるということです。仕事とその他の生活が両立しやすいように働く時間が適正であるだけでなく、フレックスタイム制*や在宅勤務など、働き方が選びやすくなっています。

2つ目は、個人の価値観で自由にライフスタイルを選択できる社会であることです。性別で役割を決めつけず、一人ひとりの価値観によって働き方や結婚・出産が選択でき、やる気になればいつでもやり直しがきく社会を実現しようとしている国が、多くの女性が活躍している国なのです。

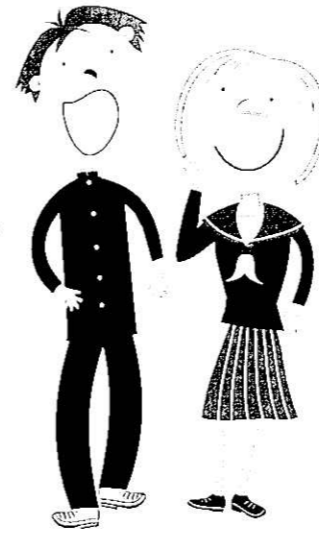
*フレックスタイム制 総労働時間をあらかじめ決めておいて、労働者はその枠内で各日の始業及び終業の時刻を自主的に決定し働く制度。労働者が生活と仕事の調和を図りながら、効率的に働くことができ、労働時間の短縮につながる。

基本的な人間の能力がどこまで伸びたかを示すHDIでは、日本は177か国中11位ですが、女性が政治経済活動に参画し、意思決定に参画できているかを測るGEMでは80か国中43位と大きく落ち込んでいます。一方、北欧諸国はどちらも上位に位置しています。

人間開発に関する指標の国際比較

HDI (人間開発指数)			GEM (ジェンダー・エンパワーメント指数)		
順位	国名	HDI	順位	国名	GEM
1	ノルウェー	0.923	1	ノルウェー	0.928
2	アイスランド	0.955	2	デンマーク	0.860
3	オーストラリア	0.955	3	スウェーデン	0.852
4	ルクセンブルグ	0.949	4	アイスランド	0.834
5	カナダ	0.949	5	フィンランド	0.833
6	スウェーデン	0.949	6	ベルギー	0.828
7	スイス	0.947	7	オーストラリア	0.826
8	アイルランド	0.946	8	オランダ	0.814
9	ベルギー	0.945	9	ドイツ	0.813
10	米国	0.944	10	カナダ	0.807
11	日本	0.943	11	スイス	0.795
12	オランダ	0.943	12	米国	0.793
13	フィンランド	0.941			
14	デンマーク	0.941	40	パナマ	0.563
15	英国	0.939	41	マケドニア	0.555
16	フランス	0.938	42	タンザニア	0.538
17	オーストリア	0.936	43	日本	0.534
18	イタリア	0.934	44	ハンガリー	0.528
19	ニュージーランド	0.933	45	ドミニカ共和国	0.527
20	ドイツ	0.930	46	フィリピン	0.526

(備考) 1. 国連開発計画(UNDP)「人間開発報告書」(2005年)より作成。
2. HDIは177か国中、GEMは80か国中の順位である。



男女共同参画社会を実現 するための方策あれこれ

国によってさまざまな特徴があります。北欧諸国では手厚い社会保障を基本にしていますし、アメリカは個人の意欲を引き出す政策を進めています。

ここでは、男女共同参画社会を実現するための方策を3つ紹介します。

方策その① 「パパ・クォータ制」

ノルウェーでは、1993年育児休業制度の中に「パパ・クォータ制」を導入しました。育児休業のうち最低4週間は、母親ではなく父親が取得しなければならない、という制度です。最新の統計では85%の男性が育児休業を取っているといわれています。

方策その② ポジティブ・アクション

「女(男)はこうあるべき」というような性別で役割を固定した考え方や、それに基づいてつくられたしくみによって生まれた男女差を解消するための方法として「ポジティブ・アクション」があります。具体的には、議員などのうち一定の比率の人数を女性に割り当てる方法(クォータ制)や、〇年までに女性の割合を〇パーセントにするという目標達成制(ゴール・アンド・タイムテーブル制)などです。

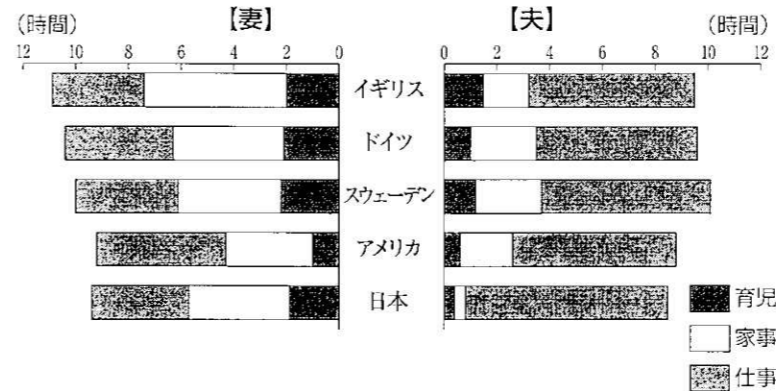
GEM(女性が社会で能力を発揮している度合い)が世界第1位のノルウェーでは、4人以上の公的機関の委員会や理事会等のメンバーを決める際、いずれの性も40%を下回ってはならないとするクォータ制を導入していますし、スウェーデンやイギリス、ドイツ、韓国などの政党でも女性の政治への参画を進めるためにクォータ制を採用しています。

方策その③ ワークシェアリング

オランダでは、労働者間で仕事を分かち合う「ワークシェアリング」という働き方を導入しています。オランダ型のワークシェアリングは、フルタイム労働者とパートタイム労働者が、同じ仕事をしている場合には同じ時間給を払うという均等待遇を保障し、1人分の仕事を2人以上で分け合い、女性や高齢者など、より多くの労働者に雇用機会を与えようというものです。それによって、男性もまた育児に参加できる機会を得ることになりました。

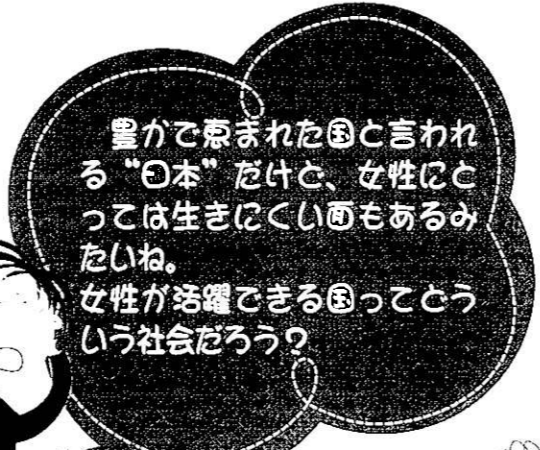
国際的に見ても、日本の夫の育児・家事時間は著しく短く、仕事時間は長くなっています。特に、育児期である30代に最も残業時間が長いという調査結果もあり、男性を含めた働き方の見直しは日本の重要な課題です。

図 育児期にある夫婦の生活時間の国際比較

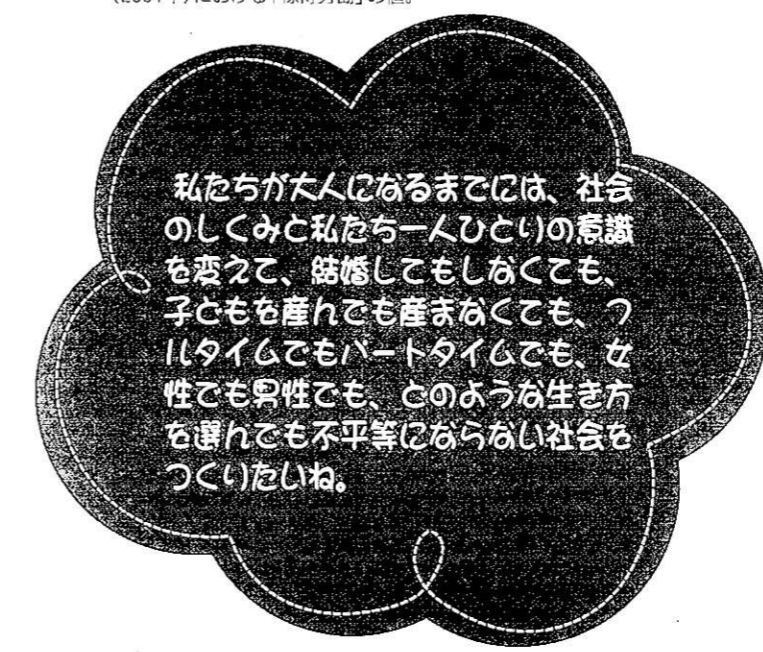


(備考)

- OECD「Employment Outlook」(2001年)、総務省「社会生活基本調査」(平成13年)より作成。
- 5歳未満(日本は6歳未満)の子どものいる夫婦の育児、家事労働及び稼得労働時間。
- 妻はフルタイム就業者(日本は有業者)の値、夫は全体の平均値。
- 「家事」は日本以外については「Employment Outlook」(2001年)における「その他の無償労働」。
- 日本については「社会生活基本調査」における「家事」、「介護・看護」及び「買い物」の合計の値であり、日本以外の「仕事」は「Employment Outlook」(2001年)における「稼得労働」の値。



豊かで恵まれた国と言われる“日本”だけと、女性にとっては生きにくい面もあるみたいね。
女性が活躍できる国ってどういう社会だろう？



私たちが大人になるまでには、社会のしくみと私たち一人ひとりの意識を変えて、結婚してもしなくても、子どもを産んでも産まなくても、フルタイムでもパートタイムでも、女性でも男性でも、このような生き方を選んでいい社会をつくりたいね。

